小原が遊びで鍛える！

ココロとカラダ！

3月に入り、暖かくなってきました。春がすぐそこまできていますね。また同時に新しい学年での生活もすぐそこまで来ています。みなさんはもう準備ができていますか？

ここ数年、スタンツをはじめ名古屋教育文化センターでは、一貫教育を一つのテーマに掲げてきました。下は2歳児から上は高校生までの子ども達の成長の手助けをさせていただいております。

主に2歳児から小学生までの子ども達と関わらせてもらう中で、改めて感じることがありました。それは自然の中で自由に遊ぶのが好き、自由に遊ぶのがうまいということです。特に学年が大きくなるにつれてその傾向を強く感じます。スタンツやDo曜塾などでは、日々の活動内容を概ねこちらで決めています。そのような活動内容が決してつまらないという訳ではないのですが、今日はフリータイムだよ！という日は、子ども達の盛り上がりがいつも以上にすごいのが、悲しい現実です(笑)

近年子ども達に求められる能力は、非認知能力と言われる目には見えない力だと言われています。そういった力を伸ばすには、子ども達自身が自分で考えることが重要になるかもしれません。そういう意味で、こちらも教育的配慮のもと、計画的にフリータイム、自由時間を取り入れています。日々の基本的な自然遊び、野外遊びで、シーンに合わせた遊び方を先生から学びます。

例えば、大きな木が生えていたら木登りができる。このような経験という引き出しを無数に持った子ども達が、それぞれの長所を活かして他人と接していくことで、遊びが大きく広がりを見せ、さらに引き出しが充実していくと思います。

最初に書いたように、高学年になればなるほど、自由に遊ぶことが上手になります。一見何もない自然の中で自由に遊ぶことは難しいと思います。遊び方や方法を考えることができる頭脳、そしてそれらを共有して楽しめる社会性を、スタンツやDo塾での活動で養うことができると思っています。

川合がすごいんじゃなくて

○○がすごい！

今回のすごい！は「子どもたちの熱！」

先日愛知県ドッジボール協会主催の公式試合「あいち・なごやっ子」にスタンツドッジボールくらぶの小学生が参加してきました！我らがスタンツドッジボールくらぶ、小学生メンバーは1年生から4年生の約40名が在籍中。午前中に行われた1～2年生が参加した「リトルの部」では、18チームが参加する中、結果は4位！予選リーグを全勝で突破しながらも、準決勝では愛知県の強豪チームに敗れ、実力の差を痛感しました。子どもたちは1位を目指して普段の練習に取り組んでいたので、試合後は落ち込み、涙を流すメンバーもいました。私自身も悔しい気持ちはもちろんありましたが、そんな子どもたちにかける言葉を探していました。

結果よりそれまでの過程を大切に。という言葉をよく聞きますが、今年のチームは結果を求めてきただけに、子どもたちだけでなく私自身も改めて残酷な現実を身に染みて感じました。試合後のミーティングでは、チームで集まり反省点や、次に活かすための具体的な策までメンバーで話し合い、次に繋げよう！という意識を高め合いました。

1日を通して、この学年でここまでの心の葛藤を味わえる集団スポーツ「ドッジボール」って面白いな、と実感。そんな葛藤を味わい、その中で体も心も成長できる場面にこれからも自分自身が寄り添い、見守り、応援していきたいと感じた1日となりました。

小学生になっても、「まだ行きたい！」と子どもたちが自分の気持ちで選んで通えるような教室をどんどん作っていきたいと思います！「やりたい」「好き」が見つかる教室。今の時代だからこそ、大切にしていきたいですね。そして、小学生になっても色んな話をしてくれて、中には甘えてきてくれる子がいるのも、センターのプログラムの最大の魅力です！

心と体の成長・解放！今後もよろしくお願いします！

坂本の本音トーク！

子どもの「今」を見つめる

この原稿を書いているのは2月の末。「なぜ2月は28日で終わってしまうのだろう」と、少し寂しい気持ちで書いております。年が明けると、そこからはあっという間に日にちが過ぎていきます。子ども達も、子ども達なりに年度末を意識するようで、「かあ先生、もうすぐ船出だね」と、船出の事を口にします。ちなみに「船出」とは、幼稚園や保育園で言う卒園式、修了式の事。新しい環境へ旅立つ子ども達に祝福の意をこめて、「船出式」と言う名で行っています。2才児の小さい子から、春にはランドセルをせおう年長児の子達まで、最近は特に甘えてくれます。芝生の上に腰を下ろしていると、すっと膝の上に乗ってくる子。一緒に山道を歩いていると、突然「かあ先生、いつもありがとう」と言った子。その子は春から幼稚園です。思わず目の前の景色が涙でかすんでしまいました。他にも、「抱っこして！」と、年長児の子が言うのですよ。もちろん、嬉しくて抱っこしてあげます。その子の体の重みを感じ、大きくなったなあ…と、しみじみと思うのです。

いつも船出を迎える頃になると、子ども達と保護者様へ感謝の思いが高まります。今年は更に特別な思いです。この1年間、お子様を健やかに育てて下さった保護者様に、なんと御礼の言葉を伝えたらよいのかわからないほど感謝の思いでいっぱいです。

コロナ禍の中、沢山迷いもあったと思いますが、お子様を通わせて下さったこと、本当にありがとうございました。

これから、子ども達も保護者様も新しい旅が始まりますね。どうぞ皆様のこれからが、喜びの多いものになりますよう、職員一同、心からエールを贈ります。

センター会員の皆様、1年間本当にありがとうございました。

梛木が徹底解説！

大人が変われば、子どもが変わる

MEIKYOでは中学生の定期テストの期間に入ると、テスト対策授業として、土日にも授業を行っています。土日は時間がたくさん確保できるため、朝9時から夕方5時まで8時間ほど勉強に取り組むのですが、お昼ぐらいになると子どもたちから「集中力が切れた」という声が漏れ始めます。私自身も集中力が高い方ではなかったので、先日集中力についての本を読んでみました。

そこに書かれていたことは大きく分けて２つ。環境的要因とメンタル的要因が大きく関係しているそうです。

勉強を始める際にまず一番最初にするべきことは「机の上の整理」です。これは私も普段から子どもたちに伝えているのですが、机の上は必ず「今勉強する教科だけ」を出すように指示をしています。漢字ワークも算数ドリルも両方机の上に出ている状態を目にすることはないでしょうか？

スマホやタブレットは、通知を受けるだけでも集中力が下がってしまうので、マナーモードにしてカバンの中にしまうなど視界に入らないように工夫する必要があります。

勉強に集中できる環境が整った次は、どのようにモチベーションを上げていくかです。ポイントは時間と進度の設定です。「とにかく範囲を終わらせる」では見通しが立たずなかモチベーションが上がりません。「あと15分で1ページ終わらせる」など細かく設定することで集中力が続きやすくなります。

また人の集中力は、個人差がありますが90分～120分が限界だそうです。そこで休憩も込みでスケジュールを先に立てることが重要になってきます。ダラダラ２時間かけて勉強していたものを、集中力を高めて１時間で終わらせ、残りの1時間を自由に使う。このように勉強を通して、勉強の内容だけではなく集中力の高め方、時間の管理の方法も身につけていってほしいなと思います。